2022年６月

県内企業の景況意識調査

（第181回）

共同調査
大銀経済経営研究所
大分信用金庫
大分県産業創造機構

＊ 2022年　４～６月期〈Ⅱ期〉の実績見込み
＊ 2022年　７～９月期〈Ⅲ期〉の見通し

原材料価格高騰による影響があるものの、サービス業では大幅に改善

今期（2022年４～６月期〈Ⅱ期〉）の業況判断BSIは、前期比13.2ポイント上昇の▲16.4となった。業種別のBSIは『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の４業種で改善し、『建設業』『製造業』の２業種で悪化した。

今期の業況判断BSIは、原材料価格高騰などを背景に製造業や建設業では悪化したものの、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぎ、サービス業では大幅に改善しており、全体の水準を押し上げた。

来期（2022年７～９月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、今期比4.1ポイント上昇の▲12.3となる見通し。業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』の４業種で改善し、『建設業』『サービス業』の２業種で悪化する見通しである。

来期は、引き続き原材料価格高騰による影響が懸念されるものの、部品供給の停滞が一部緩和されるとの見方から、業況判断BSIは改善する見通しである。

＊2022年　４～６月期〈Ⅱ期〉の実績見込み

製　造　業……３期ぶりに悪化
卸・小売業……卸売業は改善、小売業は悪化
建　設　業……４期ぶりに悪化
サービス業……大幅に改善

全　産　業　（195社）

原材料価格高騰による影響があるものの、サービス業では大幅に改善

◎業況判断

【今期】（2022年４～６月期〈Ⅱ期〉）

業況判断ＢＳＩ：▲16.4（前期比＋13.2ポイント）

＜内訳＞

・よくなった　　14.4%（前期比＋ 6.2ポイント）

・悪くなった　　30.8%（前期比▲ 7.0ポイント）

・変わらない　　54.9%（前期比＋ 0.8ポイント）

＜業種別＞

・前期比改善：４業種（『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』）

・前期比悪化：２業種（『建設業』『製造業』）

今期の業況判断BSIは、原材料価格高騰などを背景に製造業や建設業では悪化したものの、感染症の影響が和らぎ、サービス業では大幅に改善しており、全体の水準を押し上げた。

来期は、引き続き原材料価格高騰による影響が懸念されるものの、部品供給の停滞が一部緩和されるとの見方から、業況判断BSIは改善する見通しである。

【来期】（2022年７～９月期〈Ⅲ期〉）

業況判断ＢＳＩ：▲12.3（今期比＋ 4.1ポイント）

＜内訳＞

・よくなる　　12.4%（今期比▲ 2.0ポイント）

・悪くなる　　24.7%（今期比▲ 6.1ポイント）

・変わらない　　62.9%（今期比＋ 8.0ポイント）

＜業種別＞

・今期比改善：４業種（『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』）

・今期比悪化：２業種（『建設業』『サービス業』）

◎売上高と収益

【今期】

売上高ＢＳＩ：▲ 8.3（前期比＋ 7.9ポイント）
３業種で改善

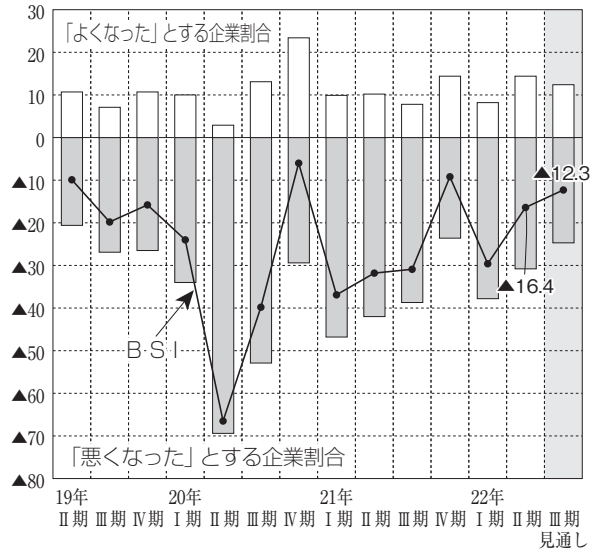
収益ＢＳＩ　：▲10.8（前期比＋16.2ポイント）
４業種で改善

【来期】

売上高ＢＳＩ：▲ 6.7（今期比＋ 1.6ポイント）
２業種で改善見通し

収益ＢＳＩ　：▲15.6（今期比▲ 4.8ポイント）
４業種で悪化見通し

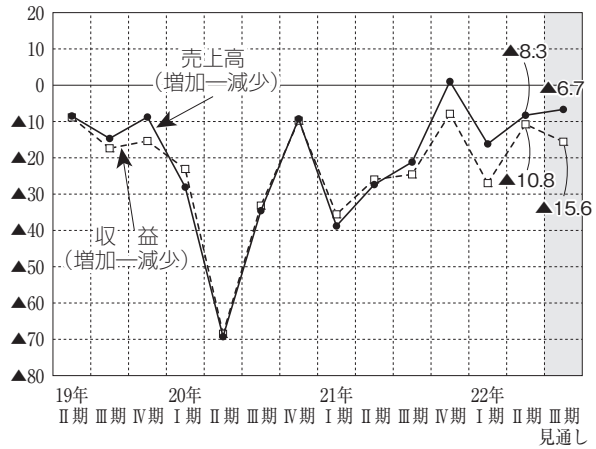
業況判断（ＢＳＩ）



業況判断指数内訳（ＢＳＩ）

	2021年Ⅳ期	2022年Ⅰ期	2022年Ⅱ期	2022年Ⅲ期見通し
建　設　業	▲20.0	▲11.5	▲18.5	▲29.6
製　造　業	▲22.2	▲20.0	▲36.0	▲ 8.4
卸・小売業	▲12.3	▲34.6	▲28.6	▲28.5
金融･不動産業	0.0	▲40.0	0.0	14.3
運　輸　業	6.7	▲21.5	▲14.3	▲ 7.1
サービス業	17.5	▲55.9	30.6	8.3
全　産　業	▲ 9.2	▲29.6	▲16.4	▲12.3

売上高と収益（ＢＳＩ）



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間ＢＳＩ：▲15.7（前期比▲ 2.7ポイント）
３業種で低下

雇用者数の現状ＢＳＩ：▲26.0（前期比＋ 8.6ポイント）
３業種で上昇

【来期】

所定外労働時間ＢＳＩ：▲ 3.8（今期比＋11.9ポイント）

◎経営上の問題点

１位：「売上不振」（33.2%）
２位：「原材料仕入価格高騰」（28.9%）
３位：「人手不足」（13.4%）
４位：「人材不足」（7.0%）
５位：「競争激化」（6.4%）

業種別にみると、「売上不振」と回答した割合は、『サービス業』が42.4%と特に高い。「原材料仕入価格高騰」は『運輸業』で38.3%と最も高くなっている。

◎設備投資実施割合

【今期】

実施企業の割合：35.9%（前期比▲ 1.2ポイント）
４業種で減少

＜投資目的＞
１位：「補修・更新」（60.0%）
２位：「合理化・省力化」（15.7%）
３位：「生産能力の拡大・売上増加」（14.3%）

【来期】

実施予定企業の割合：37.4%（今期比＋ 1.5ポイント）
４業種で増加見通し

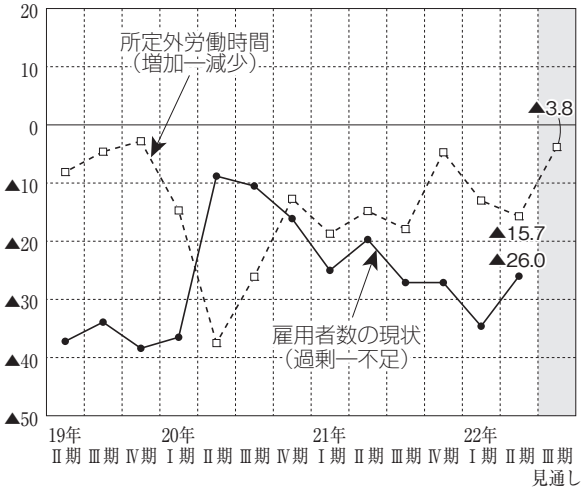
＜投資目的＞
１位：「補修・更新」（56.9%）
２位：「生産能力の拡大・売上増加」（16.7%）
３位：「合理化・省力化」（11.1%）

◎「ウクライナ情勢の緊迫化などによる原油価格高騰の企業業績への影響」について

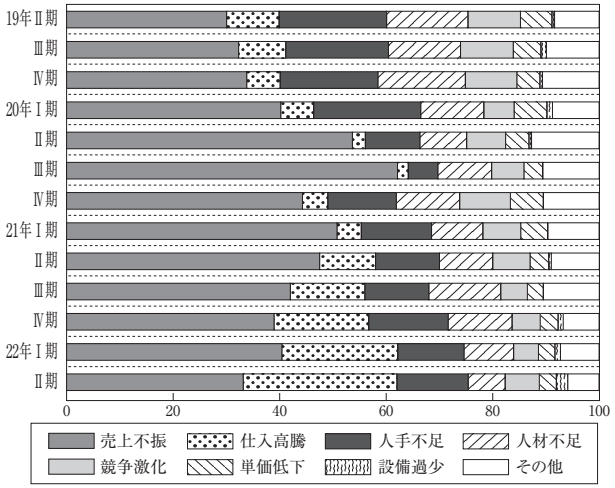
今回の調査において、「ウクライナ情勢の緊迫化などによる原油価格高騰の企業業績への影響」について尋ねたところ、「やや影響がある」が37.9%、「大いに影響がある」が35.4%、「影響はあるが微小である」が13.8%、「分からない」が5.6%、「影響は全くない」が4.6%となった。

業種別にみると、「大いに影響がある」と回答した割合は、『運輸業』が50.0%と最も高く、次いで『製造業』が42.6%、『卸・小売業』が40.8%となった。

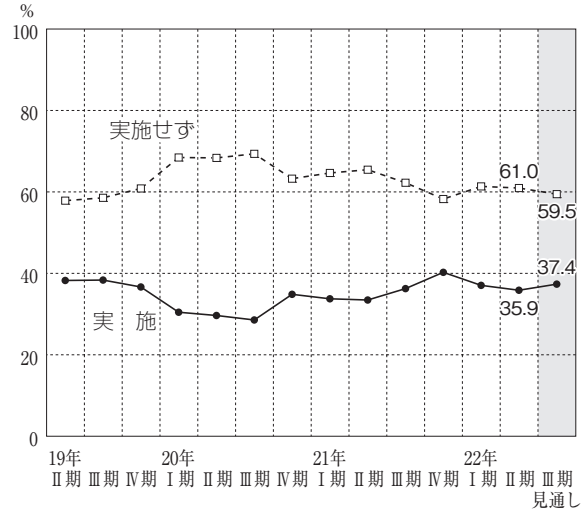
所定外労働時間と雇用者数の現状（ＢＳＩ）



経営上の問題点（%）



設備投資実施割合



製　造　業　(61社)

３期ぶりに悪化

◎業況判断

【今期】（2022年４～６月期〈Ⅱ期〉）

業況判断ＢＳＩ：▲36.0（前期比▲16.0ポイント）

＜内訳＞

・よくなった　　6.6%（前期比▲ 4.2ポイント）
・悪くなった　　42.6%（前期比＋11.8ポイント）
・変わらない　　50.8%（前期比▲ 7.7ポイント）

＜業種別＞

・前期比改善：１業種（「食料品」）
・前期比悪化：６業種（「化学・石油」「鉄・非鉄・金属」「機械」「印刷・出版」「窯業・土石」「その他」）
・前期比不変：１業種（「木材・家具」）

業況判断BSIは、原材料価格の高騰を受けて「鉄・非鉄・金属」が悪化したほか、中国・上海のロックダウンによる部品供給の停滞で「機械」が悪化した。また、経営上の問題点として、原材料仕入価格高騰と回答する企業の割合が３期連続で上昇している。

【来期】（2022年７～９月期〈Ⅲ期〉）

業況判断ＢＳＩ：▲ 8.4（今期比＋27.6ポイント）

＜内訳＞

・よくなる　　13.3%（今期比＋ 6.7ポイント）
・悪くなる　　21.7%（今期比▲20.9ポイント）
・変わらない　　65.0%（今期比＋14.2ポイント）

＜業種別＞

・今期比改善：６業種（「化学・石油」「鉄・非鉄・金属」「機械」「印刷・出版」「窯業・土石」「その他」）
・今期比悪化：１業種（「食料品」）
・今期比不変：１業種（「木材・家具」）

来期の景況感は、部品供給の停滞が一部緩和されるとの見方から、「機械」は改善する見通しであり、全体の業況判断BSIも改善する見通しである。

◎売上高と収益

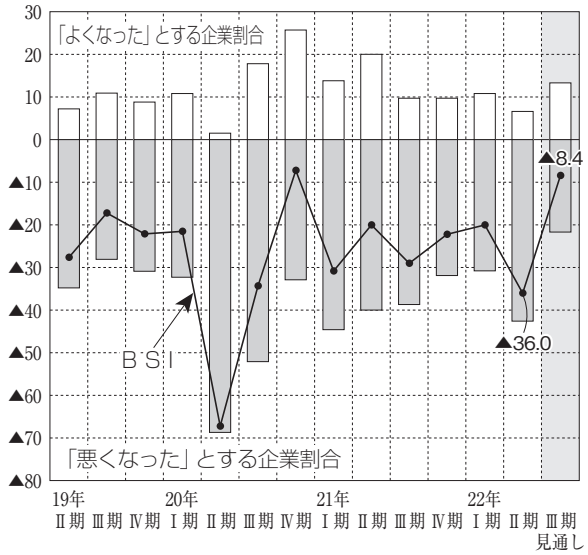
【今期】

売上高ＢＳＩ：▲21.3（前期比▲13.6ポイント）
収益ＢＳＩ　：▲39.3（前期比▲23.7ポイント）

【来期】

売上高ＢＳＩ：▲ 3.3（今期比＋18.0ポイント）
収益ＢＳＩ　：▲11.7（今期比＋27.6ポイント）

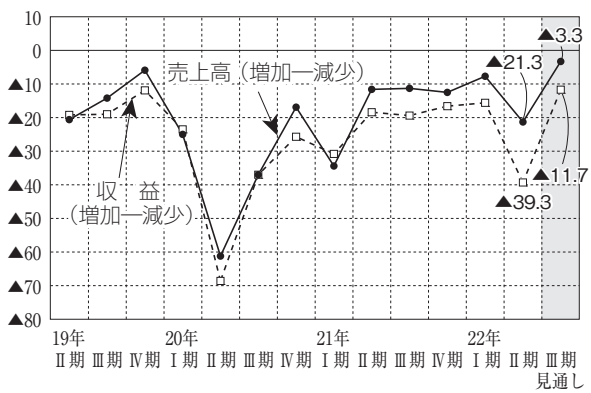
業況判断（ＢＳＩ）



業況判断指数内訳（ＢＳＩ）

	2021年 Ⅳ期	2022年 Ⅰ期	2022年 Ⅱ期	2022年 Ⅲ期見通し
化学・石油	▲16.7	▲20.0	▲33.3	0.0
鉄･非鉄･金属	▲33.4	11.1	▲44.4	0.0
機　　械	▲15.8	▲ 6.3	▲50.0	▲16.7
食　料　品	▲ 7.7	▲53.8	18.2	10.0
木材・家具	▲12.5	0.0	0.0	0.0
印刷・出版	▲33.3	▲20.0	▲80.0	▲60.0
窯業・土石	0.0	0.0	▲33.3	0.0
そ　の　他	▲55.6	▲50.0	▲66.7	0.0
製　造　業	▲22.2	▲20.0	▲36.0	▲ 8.4

売上高と収益（ＢＳＩ）



卸・小売業 （49社）

卸売業は改善、小売業は悪化

◎業況判断

【今期】（2022年４～６月期〈Ⅱ期〉）

『卸売業』

業況判断ＢＳＩ：± 0.0（前期比＋27.0ポイント）

＜内訳＞

・よくなった　18.2%（前期比＋ 6.7ポイント）

・悪くなった　18.2%（前期比▲20.3ポイント）

・変わらない　63.6%（前期比＋13.6ポイント）

『小売業』

業況判断ＢＳＩ：▲51.9（前期比▲ 9.6ポイント）

＜内訳＞

・よくなった　3.7%（前期比▲ 4.0ポイント）

・悪くなった　55.6%（前期比＋ 5.6ポイント）

・変わらない　40.7%（前期比▲ 1.6ポイント）

卸売業では売上高BSI、収益BSIがともに改善しており、業況判断BSIも改善した。一方小売業では、「よくなった」と回答した企業はごくわずかで、業況判断BSIは悪化した。

【来期】（2022年７～９月期〈Ⅲ期〉）

『卸売業』

業況判断ＢＳＩ：▲13.6（今期比▲13.6ポイント）

『小売業』

業況判断ＢＳＩ：▲40.7（今期比＋11.2ポイント）

仕入価格高騰による影響への懸念から、業況判断BSIは卸売業では悪化、小売業では引き続き低水準となる見通しである。

◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高ＢＳＩ：＋ 4.5（前期比＋27.6ポイント）

収益ＢＳＩ　：▲ 9.1（前期比＋14.0ポイント）

【来期】

売上高ＢＳＩ：＋ 9.1（今期比＋ 4.6ポイント）

収益ＢＳＩ　：▲18.2（今期比▲ 9.1ポイント）

◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高ＢＳＩ：▲18.5（前期比▲ 6.9ポイント）

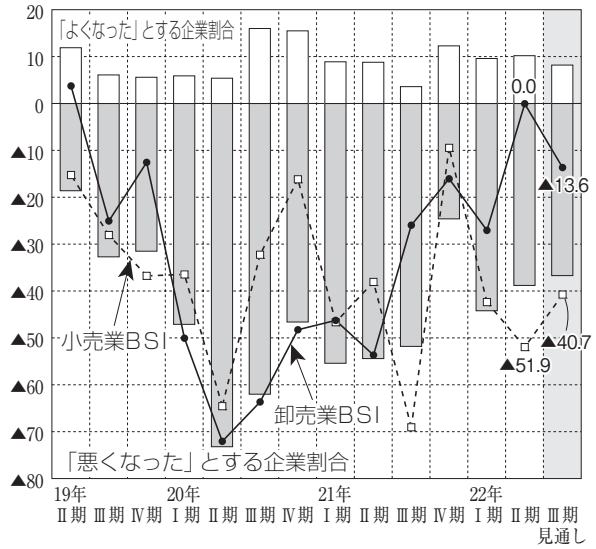
収益ＢＳＩ　：▲18.5（前期比＋23.8ポイント）

【来期】

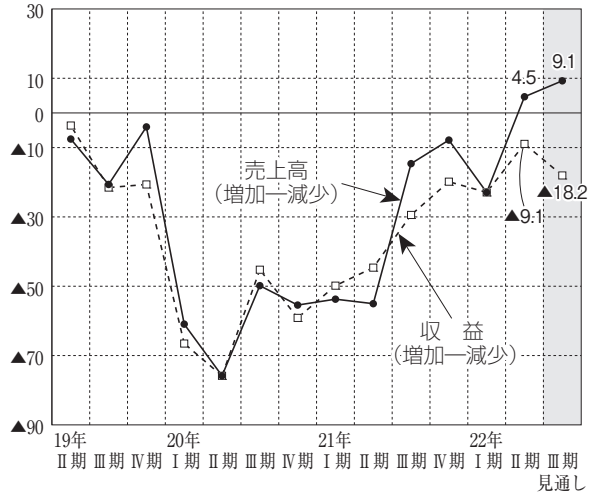
売上高ＢＳＩ：▲33.3（今期比▲14.8ポイント）

収益ＢＳＩ　：▲44.4（今期比▲25.9ポイント）

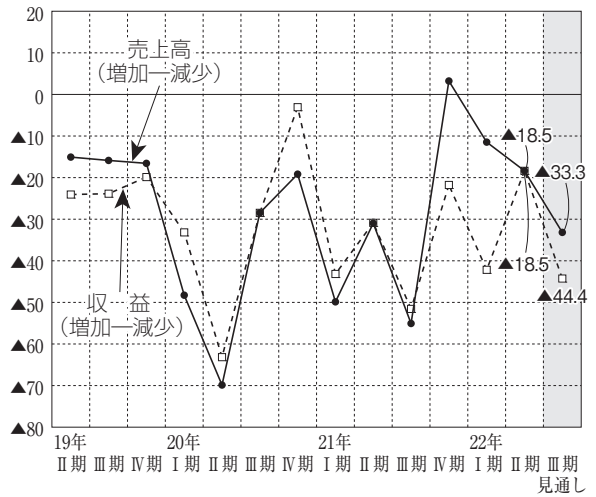
業況判断（ＢＳＩ）



〔卸売業〕 売上高と収益（ＢＳＩ）



〔小売業〕 売上高と収益（ＢＳＩ）



建　設　業　（27社）

４期ぶりに悪化

◎業況判断

【今期】（2022年４～６月期〈Ⅱ期〉）

業況判断ＢＳＩ：▲18.5（前期比▲ 7.0ポイント）

＜内訳＞

・よくなった　　0.0％（前期比± 0.0ポイント）

・悪くなった　　18.5％（前期比＋ 7.0ポイント）

・変わらない　　81.5％（前期比▲ 7.0ポイント）

業況が「よくなった」と回答した企業がない中で、「悪くなった」と回答した企業の割合が上昇し、業況判断 BSI は４期ぶりに悪化となった。

経営上の問題点として原材料仕入価格高騰を挙げる企業の割合が２期連続で上昇しており、業況が悪化した一因と考えられる。

【来期】（2022年７～９月期〈Ⅲ期〉）

業況判断ＢＳＩ：▲29.6（今期比▲11.1ポイント）

＜内訳＞

・よくなる　　0.0％（今期比± 0.0ポイント）

・悪くなる　　29.6％（今期比＋11.1ポイント）

・変わらない　　70.4％（今期比▲11.1ポイント）

来期の収益 BSI は原材料価格の高騰などを背景に２期連続の悪化となり、緊急事態宣言下にあった20年Ⅱ期ぶりの低水準となる見通しである。

◎売上高と収益

【今期】

売上高ＢＳＩ：▲30.8（前期比▲46.2ポイント）

収益ＢＳＩ　：▲11.6（前期比▲11.6ポイント）

【来期】

売上高ＢＳＩ：▲19.3（今期比＋11.5ポイント）

収益ＢＳＩ　：▲34.6（今期比▲23.0ポイント）

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間ＢＳＩ：▲30.8（前期比▲18.8ポイント）

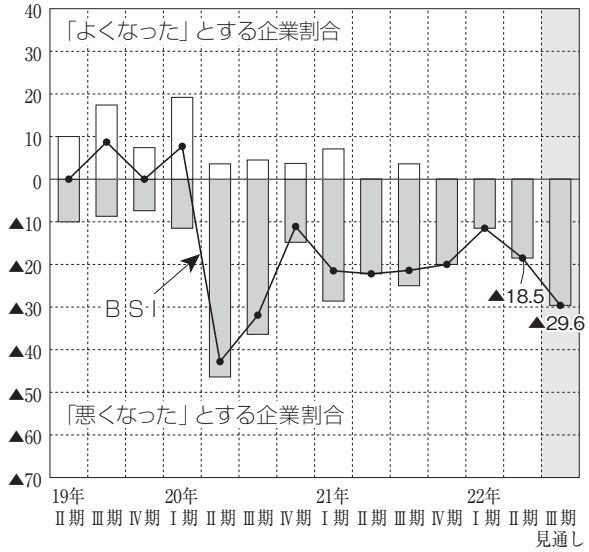
雇用者数の現状ＢＳＩ：▲71.4（前期比▲ 6.4ポイント）

雇用者数の現状 BSI が３期連続で低下しており、企業の人手不足感が高まっている。

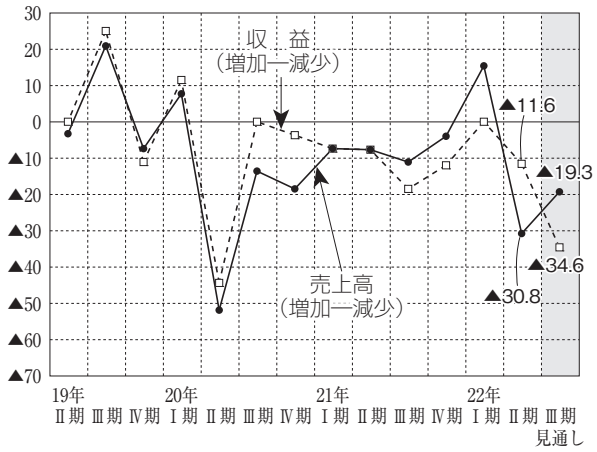
【来期】

所定外労働時間ＢＳＩ：▲19.3（今期比＋11.5ポイント）

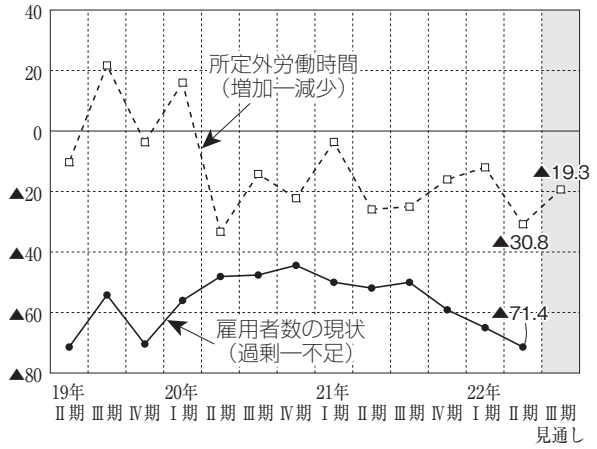
業況判断（ＢＳＩ）



売上高と収益（ＢＳＩ）



所定外労働時間と雇用者数の現状（ＢＳＩ）



サービス業 （36社）

大幅に改善

◎業況判断

【今期】（2022年４～６月期〈Ⅱ期〉）

業況判断ＢＳＩ：＋30.6（前期比＋86.5ポイント）

＜内訳＞

・よくなった　41.7%（前期比＋35.8ポイント）

・悪くなった　11.1%（前期比▲50.7ポイント）

・変わらない　47.2%（前期比＋14.8ポイント）

サービス業のうち観光関連の16社では、「よくなった」と回答した企業は前期比75.0ポイント増の75.0%、「悪くなった」と回答した企業はなかった（前期比▲94.9ポイント）。観光関連以外（20社）では、「よくなった」と回答した企業が15.0%、「悪くなった」と回答した企業が20.0%だった。観光関連では、感染症の影響が和らぐ中、自治体による需要喚起策が回復を後押しし、業況が改善した。

【来期】（2022年７～９月期〈Ⅲ期〉）

業況判断ＢＳＩ：＋ 8.3（今期比▲22.3ポイント）

＜内訳＞

・よくなる　22.2%（今期比▲19.5ポイント）

・悪くなる　13.9%（今期比＋ 2.8ポイント）

・変わらない　63.9%（今期比＋16.7ポイント）

◎売上高と収益

【今期】

売上高ＢＳＩ：＋25.0（前期比＋86.7ポイント）

収益ＢＳＩ　：＋36.1（前期比＋89.0ポイント）

【来期】

売上高ＢＳＩ：＋ 5.5（今期比▲19.5ポイント）

収益ＢＳＩ　：＋ 8.3（今期比▲27.8ポイント）

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

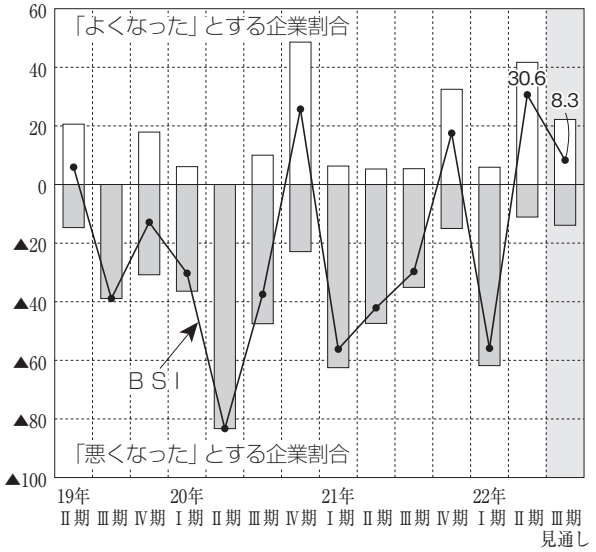
所定外労働時間ＢＳＩ：＋ 5.7（前期比＋48.1ポイント）

雇用者数の現状ＢＳＩ：▲16.7（前期比▲ 1.3ポイント）

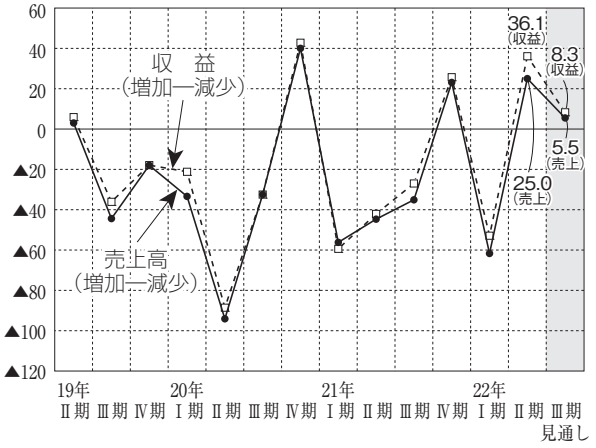
【来期】

所定外労働時間ＢＳＩ：＋ 8.6（今期比＋ 2.9ポイント）

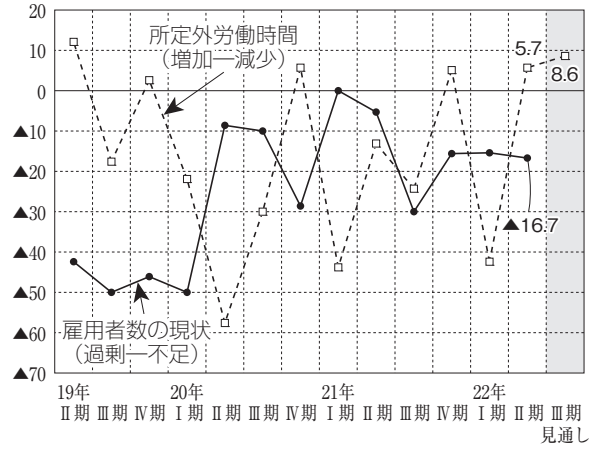
業況判断（ＢＳＩ）



売上高と収益（ＢＳＩ）



所定外労働時間と雇用者数の現状（ＢＳＩ）



ＢＳＩとは

ＢＳＩとは“Business　Survey　Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という３つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

ＢＳＩは次の数式で求められる。

①〔よくなる〕+〔変わらない〕+〔悪くなる〕=100％とする

②〔変わらない〕の回答分を除く

③ ＢＳＩ=〔よくなる〕−〔悪くなる〕

ＢＳＩが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調 査 時 点　　2022年５月20日

◎調査の内容

・自社の景況の実績と見通し
・売上高と収益の実績と見通し
・設備投資実施割合
・経営上の問題点など

◎調 査 対 象

・県内に本社または出先事業所を有する企業429社

◎回答企業数　　195社

・回答率　　45.5％

・規模別割合

資本金１千万円未満・個人	9.7％
資本金１千万円～１億円未満	60.0％
資本金１億円以上	16.4％
無回答	13.8％